

小林市文化財調査報告書 第3集

市内遺跡発掘調査報告書

平成 21 (2009) 年 3 月

宮崎県小林市教育委員会

序 文

この報告書は、小林市教育委員会が平成 20 年度に実施した試掘・確認調査の報告書です。近年、小林市では開発事業等の増加により、開発事業と埋蔵文化財保護との調整が重要な課題となっています。平成 4 年度から平成 5 年度にかけて市内の遺跡詳細分布調査を実施し、その結果、250 カ所以上の遺跡が確認されています。小林市教育委員会ではこの結果を受けて、開発区域内の遺跡について事前の試掘・確認調査を実施しているところです。本書の刊行を機に、皆様の埋蔵文化財に対する一層の御理解をいただければ幸いです。

最後になりましたが、調査に御協力いただきました関係諸機関並びに地権者の方々、また発掘調査に従事していただいた皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成 21 年 3 月

小林市教育委員会
教育長 佐藤 勝美

例　　言

1 本書は、小林市教育委員会が平成20年度に実施した市内遺跡発掘調査の報告書である。

2 調査組織は以下のとおりである。

調査主体 小林市教育委員会

教育長 佐藤 勝美

社会教育課長 堀 英博

文化財係長 天辰 より子

庶務担当 山本 百合香

調査担当 増谷 理絵

秦 広之

発掘作業員

3 本書の執筆及び編集は、増谷・秦が行った。

4 山中地区については、平成19年度末に確認調査を実施し、平成19年度作成の市内遺跡発掘調査報告書に掲載できなかったため、本報告書に掲載する。

5 本書に利用した「市内遺跡試掘確認調査位置図」は国土交通省国土地理院長の承認を得て、同院発行の25,000分の1地形図を複製したものを使用している。

本 文 目 次

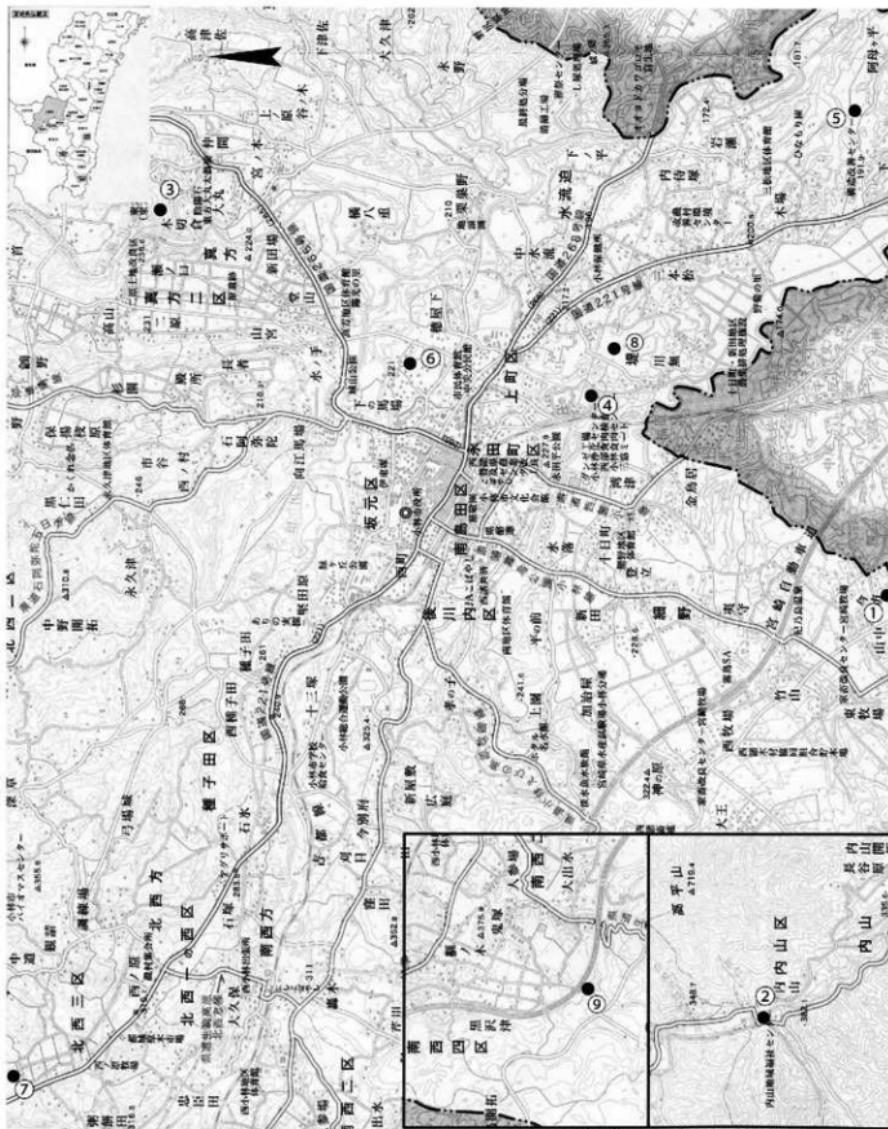
◆ 試掘確認調査の記録	1
1 山中地区	3
2 内山地区	6
3 内木場地区	8
4 八幡原地区	10
5 一本終地区	12
6 小林原地区	14
7 卍田原地区	16
8 前門塚地区	19
9 鬼塚地区	20

試掘確認調査の記録

近年、小林市では開発事業等の増加により、各種開発事業と埋蔵文化財保護との調整が重要な課題となっている。今年度は開発事業の予定されていた内山地区、内木場地区、八幡原地区、一本格地区、小林原地区、牛田原地区、前門塚地区、鬼塚地区の計8地区で試掘確認調査を行い、遺構・遺物の有無について調査した。また、前年度末（平成19年度3月末）には山中地区の確認調査を実施した。

番号	調査地区名	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	調査要因
1	山中地区	山中遺跡	小林市大字細野字今坊	H20.3.25~3.27	36m ²	県営経営体育成基盤整備事業
2	内山地区	内山城跡	小林市須木大字内山字東ノ前	H20.5.7~5.8	12m ²	携帯電話用鉄塔建設
3	内木場地区	内木場城跡	小林市大字東方字内木場	H20.6.12	6m ²	携帯電話無線基地局建設
4	八幡原地区	八幡原遺跡	小林市大字堤字八幡原	H20.7.30	4.5m ²	携帯電話無線基地局建設
5	-本終地区	桜野遺跡	小林市大字堤字一本終	H20.8.20	9m ²	県営烟地帯総合整備事業
6	小林原地区	小林原遺跡	小林市大字真方・水流追	H20.10.3	5m ²	道路改良工事
7	牛田原地区	猫坂遺跡	小林市大字北西方字猫坂	H20.12.26~H21.3.17	78m ²	県営経営体育成基盤整備事業
8	前門塚地区	堤遺跡群	小林市大字堤字前門塚	H21.2.21	13m ²	市単独農道舗装事業
9	鬼塚地区	鬼塚遺跡群	小林市大字南西方字ヒレ原	H21.3.10	15.4m ²	携帯電話無線基地局建設

平成20年度市内遺跡試掘確認調査地一覧表



①山中地区 ②内山地区 ③内木場地区 ④八幡原地区 ⑤一本松地区 ⑥小林原地区 ⑦前門塚地区 ⑧鬼塚地区

市内遺跡試掘確認調査位置図 (1/25000)

1 山中地区（小林市大字細野字今坊）

【遺跡の位置と環境】

調査地は夷守岳東部山麓に広がる標高 260m程度の扇状地に位置している。付近には宮崎自動車道が東西を通り、周囲には水田や牧場が広がる広大な農村地帯である。周辺には竹山遺跡や前ノ原遺跡群、山中前遺跡などの縄文・弥生時代の遺物散布地が広がっている。

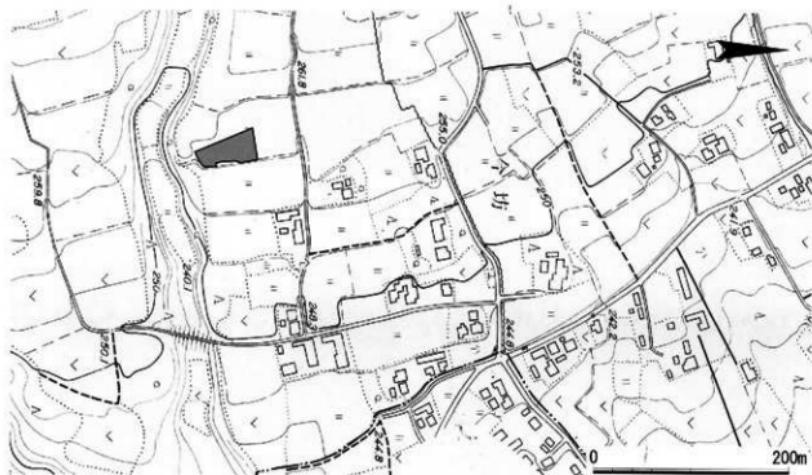
【調査に至る経緯】

山中地区では宮崎県西諸県農林振興局による県営経営体育成基盤整備事業が計画されていた。計画予定地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「山中遺跡群」内であり、また遺物の散布が著しいことから、開発事業と埋蔵文化財保護との調整を図るために、平成14年度に県教育委員会および市教育委員会が確認調査を行った。その結果、縄文時代後期を中心とする土器や石器、住居跡が発見された。工事を行うことによりこれらの遺跡の破壊が考えられることから、工事着手前の事前調査を行う必要が生じた。平成16年度から小林市教育委員会を調査主体とした埋蔵文化財の記録保存を目的とする山中遺跡群の本発掘調査を実施している。

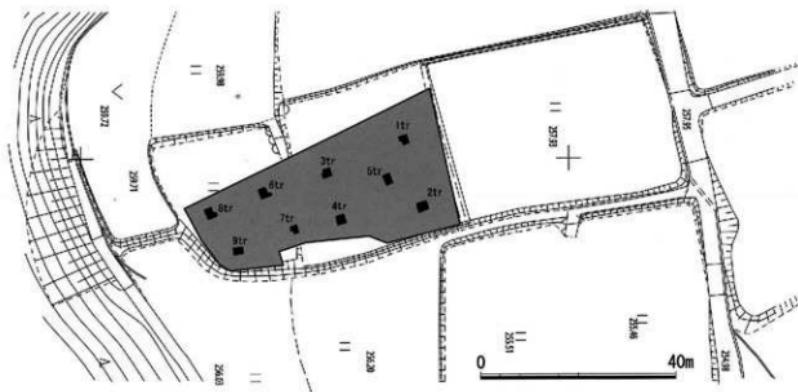
今回は平成20年度本発掘調査箇所の遺構の密度・遺物包含層を確認するため、確認調査を実施した。

【調査の概要】

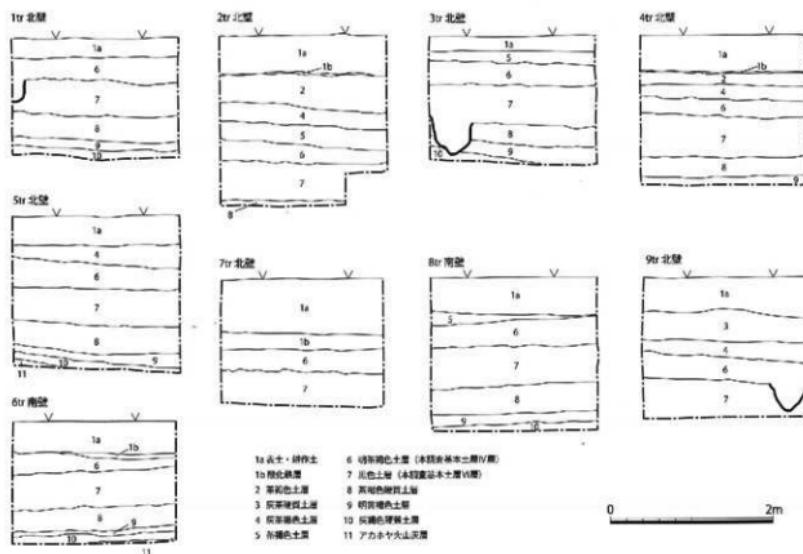
計画予定地内に計9箇所のトレンチを設け、地表面から深さ約1.5m～2.1m程度掘削した。その結果、明茶褐色土層および黒色土層から土器片や石器等の遺物が出土した。また、黒色土層下の茶褐色層上面にてピットが検出された。



調査区位置図 (1/5000)



トレンチ配置図 (1/1000)



トレンチ土層図 (1/60)



1tr 堆積状況（北壁）



2tr 堆積状況（北壁）



3tr 堆積状況（北壁）



4tr 堆積状況（北壁）



5tr 堆積状況（北壁）



6tr 堆積状況（南壁）



8tr 堆積状況（南壁）



9tr 堆積状況（南壁）

2 内山地区（小林市須木大字内山字東ノ前）

【遺跡の位置と環境】

調査地は須木地区の南東部に位置する。周囲を標高約600～800m級の山々に囲まれており、浦之名川沿いの小高い丘上にある。同丘上には、内山保育園と福祉施設が立地しており、施設建設等により地形は大きく改変されている。

【調査に至る経緯】

内山地区では携帯電話基地局建設が予定されていた。計画予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地「内山城跡遺跡」の範囲に含まれておらず、中世の城館跡として認識されていた。そこで、事業者と市教育委員会で埋蔵文化財の取扱について協議した結果、工事着手前に遺跡の有無を判断するため、確認調査を実施することになった。

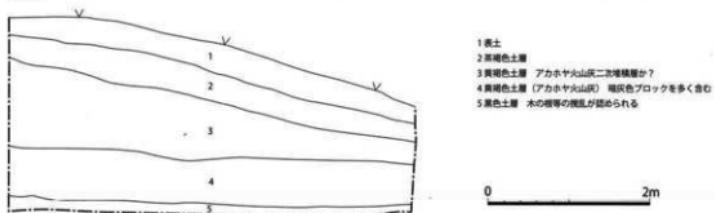
【調査の概要】

工事予定地内にトレンチを1箇所設け、地表面から深さ約2.0m程度掘削した。調査地では植林が行われており、また、竹藪となっていたため、全体的に切り株や竹の根等によりかなりの搅乱を受けていた。調査の結果、縄文時代早期の層位にあたる黒色土まで掘り下げたが、木の根等の搅乱により部分的にしか残存しておらず、遺構は検出されなかった。遺物は縄文時代早期土器片2点と黒曜石1点が出土したのみで、中世の遺構・遺物は確認できなかった。



調査区位置図（1/3000）

1tr 南壁



トレンチ土層図 (1/60)



調査地遠景



1tr

3 内木場地区（小林市大字東方字内木場）

【遺跡の位置と環境】

調査地は小林地区北東部に位置し、標高 236m の台地の端部で、現況は畠地である。周知の埋蔵文化財包蔵地「内木場城跡」に含まれ、縄文時代の遺物散布地および中世の城跡と認識されている。

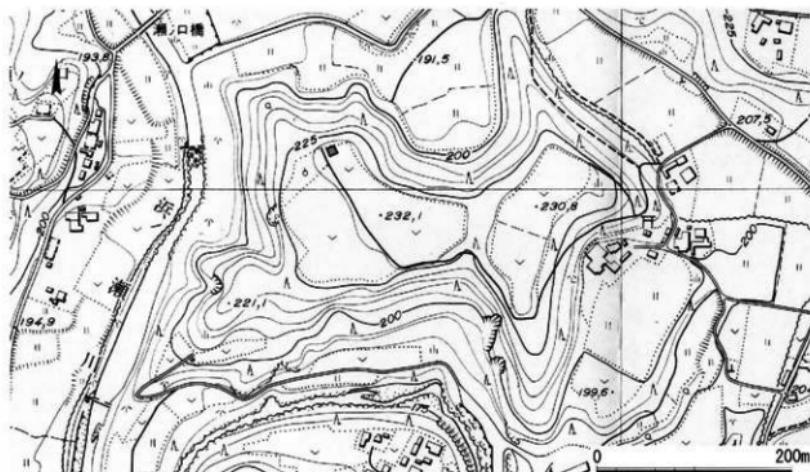
調査地である内木場城は、北側から西、南側にかけて浜ノ瀬川に周囲を囲まれ、四方ともに急傾斜地で防備の固い要害の城である。城跡の北東 400m には中世の古石塔群があり、城跡との関連も想定される。

【調査に至る経緯】

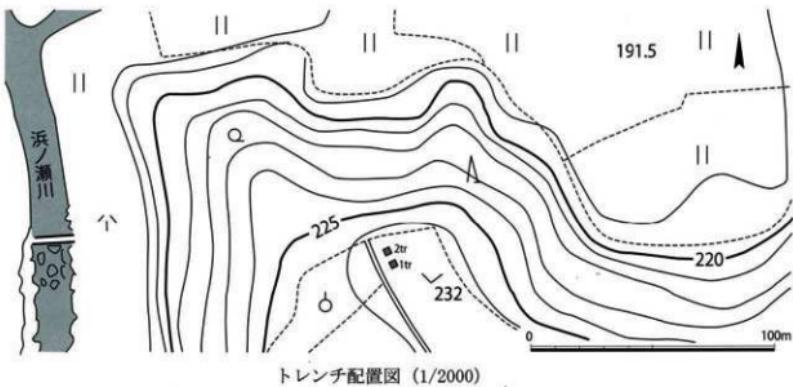
内木場地区では、携帯電話無線基地局建設が予定されていた。計画予定地内は周知の埋蔵文化財包蔵地「内木場城跡」の範囲内に含まれており、縄文時代の遺跡または中世の城跡として認識されていた。そこで、事業者と市教育委員会で埋蔵文化財の取扱について協議した結果、工事着手前に遺跡の有無を判断するため、確認調査を実施することになった。

【調査の概要】

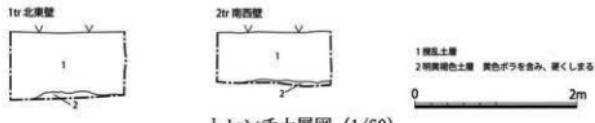
工事予定地内に 2 箇所のトレンチを設け、地表面から深さ約 0.85m 剣削した。その結果、深さ 0.8m 程度まで耕作土で、ゴボウのトレッチャによる搅乱も受けており、縄文時代の層まで大きく削平されていた。遺構・遺物は確認されなかった。



調査区位置図 (1/5000)



トレンチ配置図 (1/2000)



4 八幡原地区（小林市大字堤宇八幡原）

【遺跡の位置と環境】

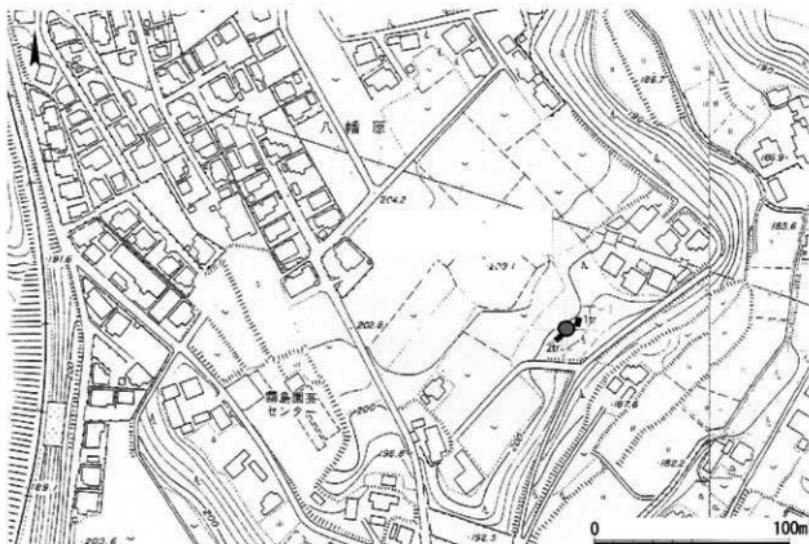
調査地は小林地区の南東部に位置し、標高約200m前後の台地上にある。現況は山林で、北から南へかけては畑地が広がっている。そのさらに北には小林商業高校があり、その南には住宅が密集して建てられている。また、調査地の東側には「堤遺跡群」（時代不明）、西側には弥生時代の遺物散布地である「永田平遺跡」が隣接している。

【調査に至る経緯】

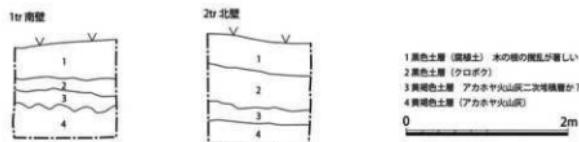
八幡原地区では携帯電話無線基地局建設が計画されていた。工事予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地「八幡原遺跡」の範囲に含まれており、弥生時代の遺物散布地として認識されていた。そこで、事業者と市教育委員会で埋蔵文化財の取扱について協議した結果、工事着手前に遺跡の有無を判断するための確認調査を実施することになった。

【調査の概要】

工事予定地内に2箇所のトレーナーを設け、地表面から深さ約1.3mほど掘削を行った。黒ボク土以下の層が残存していたが、現況が山林であるため木の根による搅乱を受けていた。調査の結果、遺構・遺物ともに確認されなかった。



調査区位置図 (1/2500)



トレンチ土層図 (1/60)



作業状況

5 一本格地区（小林市大字堤字一本格）

【遺跡の位置と環境】

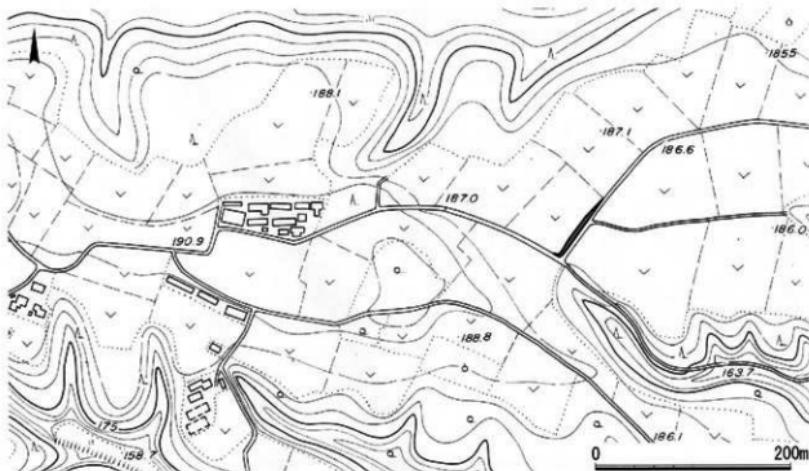
調査地は小林地区南東部に位置する。現況は畑地である。調査地の周囲には木場遺跡、前ノ追遺跡、阿母ヶ平遺跡、正月返遺跡等の弥生時代遺物散布地が広がっている。

【調査に至る経緯】

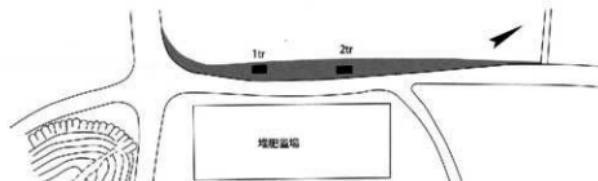
一本格地区では、宮崎県西諸県農林振興局による県営畑地帯総合整備事業が計画されていた。工事予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である「樽野遺跡」の範囲に含まれており、弥生時代～古代の遺物散布地として認識されていた。そこで、県西諸県農林振興局と市教育委員会で協議を行ったところ、工事施工前に遺跡の有無を判断するため、確認調査を実施することになった。

【調査の概要】

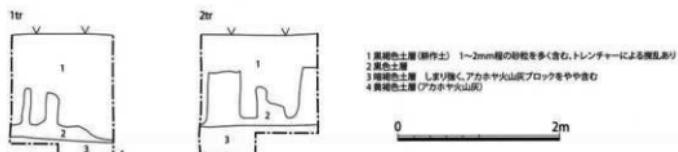
調査地にトレンチを2箇所設定し、地表面から深さ1.6mまで掘削した。黒ボク土は地表下1mまで堆積し、部分的にゴボウのトレンチャーによる搅乱を受けていた。両トレンチともにアカホヤ火山灰層上面まで掘削を行ったが、遺構・遺物は出土しなかった。



調査区位置図 (1/5000)



トレンチ配置図 (1/1000)



トレンチ土層図 (1/60)



1tr 堆積状況



2tr 堆積状況



作業状況

6 小林原地区（小林市大字真方・水流迫）

【遺跡の位置と環境】

調査地は小林地区東南部に位置し、標高約210m前後の台地上にある。北側には戦国期に伊東氏によって築かれた小林城跡があり、さらにその北側には城跡を取り巻くように石水川が流れている。調査地が所在する小林原遺跡群は縄文・弥生・近世の遺物散布地として認識されているが、現在では包蔵地内一帯に多くの住宅が建てられている地域となっている。

【調査に至る経緯】

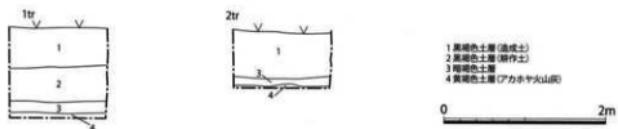
小林原地区では、市建設課による道路改良工事が計画されていた。工事予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である「小林原遺跡群」の範囲に含まれており、縄文～弥生時代、近世の遺物散布地として認識されていた。そこで、市建設課と市教育委員会との協議の結果、工事施工前に遺跡の有無を判断するため、確認調査を実施することになった。

【調査の概要】

調査地に2箇所のトレンチを設定し、地表下0.8～1.1mまで重機ならびに人力による掘削を行つた。調査の結果、2箇所のトレンチともに暗褐色土層上面ならびにアカホヤ火山灰層上面において遺構検出を行つたが、遺構ならびに遺物は認められなかつた。



調査区位図 (1/5000)



トレンチ土層図 (1/60)



7 鹿田原地区（小林市大字北西方字猫坂）

〔遺跡の位置と環境〕

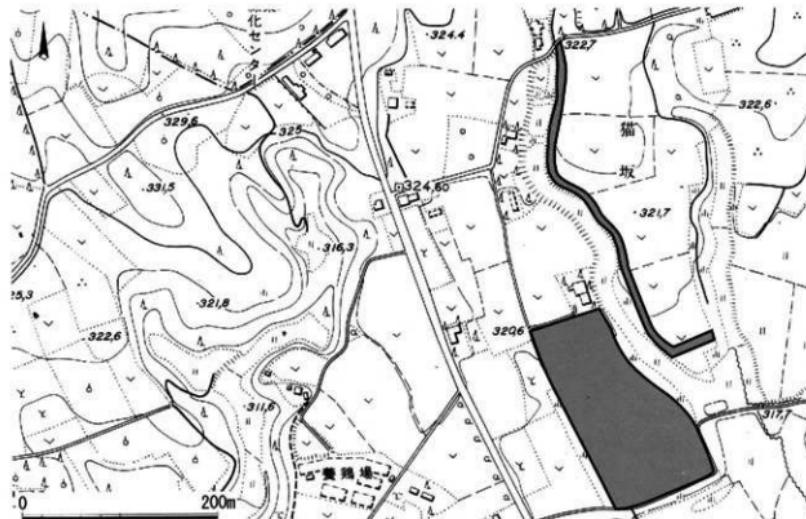
調査地は、小林地区北端部に位置し、周知の埋蔵文化財包蔵地である「猫坂遺跡」に含まれる。標高 322m 前後の丘陵上に立地し、現況は畠地ならびに農道で北から南方向にゆるやかに傾斜している。猫坂遺跡では、平成 6 年度にゴルフ場建設に伴い本発掘調査が実施され、縄文時代早期の押型文土器を伴う集石遺構を検出している。

〔調査に至る経緯〕

牟田原地区では、宮崎県西諸県農林振興局による県営経営体育城基盤事業が計画されていた。工事予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である「猫坂遺跡」の範囲内ならびに隣接地に位置することから、西諸県農林振興局と市教育委員会との協議の結果、工事施工前に遺跡の有無を判断するため、確認調査を実施することになった。

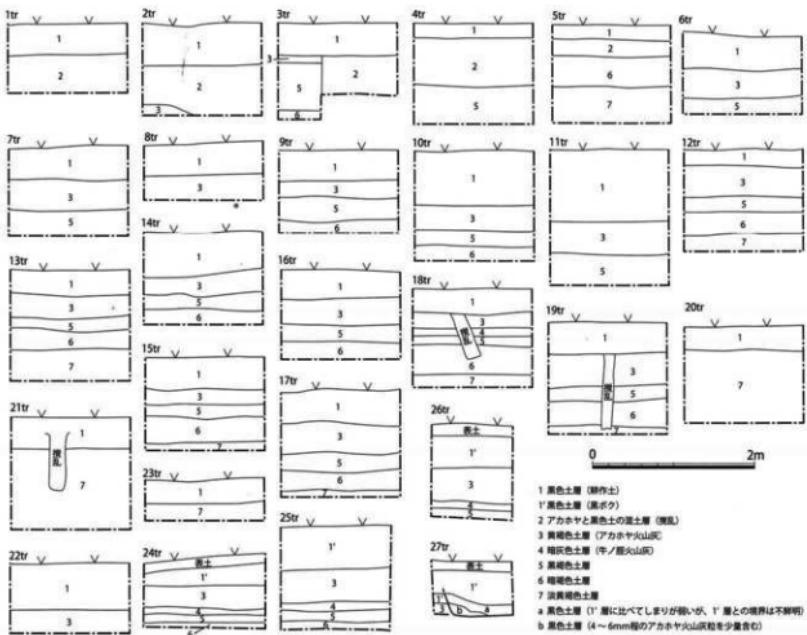
〔調査の概要〕

調査地の現況は、畑地ならびにこれに繋がる農道であり、作物栽培の進捗状況を考慮して、数回に分けて確認調査を実施した。1~5トレンチの耕作土下には、耕作地の土壤改良伴う搅乱が認められた。6~19・22・24・25トレンチでは、アカホヤ火山灰ならびに牛ノ脛火山灰等を確認することができ、層位毎の遺構検出を試みたが、遺構ならびに遺物の出土は認められなかつた。20・21・23トレンチは、今回の調査地の中で最も高い部分にあたり、牛ノ脛火山灰層下の黒褐色土ならびに暗褐色土も掘削を受けており、耕作土を取り除くと、アカホヤに類似する淡黄褐色の火山灰層が厚く堆積していた。27トレンチでは、南北方向の溝1条(時期不明)を検出した。今回の確認調査では、時期の限定できる遺構ならびに遺物は出土しなかつた。



調査区位置図 (1/5000)





トレンチ配置図 (1/60)



1tr 堆積状況



10tr 堆積状況



16tr 堆積状況



21tr 堆積状況

8 前門塚地区（小林市大字堤字前門塚）

〔遺跡の位置と環境〕

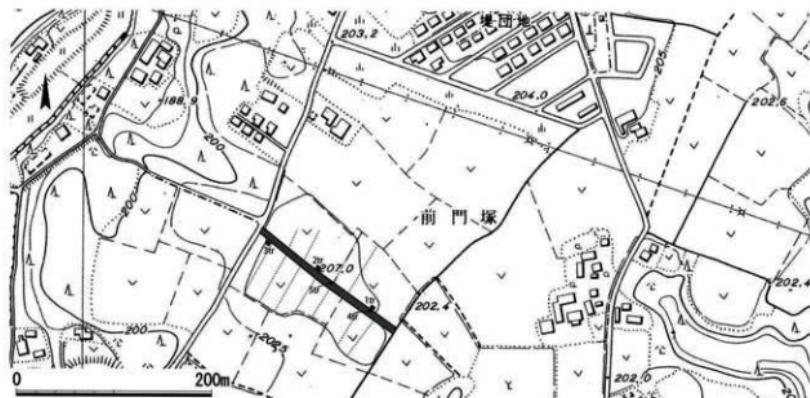
調査地は小林地区南東部、標高 207m の台地上に位置する。調査地周辺は周知の埋蔵文化財包蔵地「堤遺跡群」（時期不明：遺物散布地）に含まれる。

〔調査に至る経緯〕

前門塚地区では、市農村整備課による農道舗装事業が計画されていた。工事予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である「堤遺跡群」の範囲に含まれており、遺物散布地（時期不明）として認識されていた。そこで、市農村整備課と市教育委員会で協議を行ったところ、工事施工前に遺跡の有無を判断するため、確認調査を実施することになった。

〔調査の概要〕

調査対象地にトレンチを 5 箇所設定し、地表面から深さ 1m まで掘削した。1・3・4 トレンチでは、耕作土下に暗褐色土、その下位にアカホヤ火山灰層が認められた。2 トレンチでは、アカホヤ火山灰層は後世の掘削を受け認められず、牛ノ脛火山灰層より下位の堆積が認められた。今回の確認調査では、遺構ならびに遺物の出土は認められなかった。



調査区・トレンチ配置図 (1/5000)



1tr



2tr

9 鬼塚地区（小林市大字南西方字ヒレ原）

【遺跡の位置と環境】

調査地は小林地区北西部、標高356m前後の扇状地に位置し、南側に隣接して宮崎自動車道が東西に貫通し、付近には縄文時代の遺物散布地である黒沢津遺跡群などが存在する。

【調査に至る経緯】

鬼塚地区では携帯電話無線基地局建設が計画されていた。工事予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である「鬼塚遺跡群」の範囲に含まれており、縄文・弥生時代の遺物散布地として認識されていた。そこで、事業者と市教育委員会で埋蔵文化財の取扱いについて協議した結果、工事施工前に遺跡の有無を判断するため、確認調査を実施することになった。

【調査の概要】

調査対象地にトレンチを2箇所設定し調査を行った。地表下0.5～1.0m程で、大小の礫を多量に含む礫層が認められ、地表下1.5mまで掘削したが、これ以上の掘削は重機を用いても困難であった。今回の確認調査で遺構ならびに遺物は認められなかった。



調査区・トレンチ配置図 (1/3000)



2tr (南から)



2tr堆積状況

報告書抄録

ふりがな	しないいせきはくつちょうさほうこくしょ
書名	市内遺跡発掘調査報告書
シリーズ名	小林市文化財調査報告書（新小林市）
シリーズ番号	第3集
編著者名	増谷理絵・秦 広之
所在地	宮崎県小林市大字細野300番地
発行年月日	2009年3月31日

調査地区名	所在地	調査期間	調査面積	出土遺構	出土遺物	調査要因
山中地区	小林市大字細野字今坊	H20.3.25～3.27	36m ²	柱穴	土器片 石器 陶磁器等	県営經營体育成 基盤整備事業
内山地区	小林市須木大字内山字東ノ前	H20.5.7～5.8	12m ²	なし	土器片 石器	携帯電話用 鉄塔建設
内木場地区	小林市大字東方字内木場	H20.6.12	6m ²	なし	なし	携帯電話無線 基地局建設
八幡原地区	小林市人字堤字八幡原	H20.7.30	4.5m ²	なし	なし	携帯電話無線 基地局建設
一本終地区	小林市大字堤字一本終	H20.8.20	9m ²	なし	なし	県営畠地帶 総合整備事業
小林原地区	小林市大字真方・水流追	H20.10.3	5m ²	なし	なし	道路改良工事
牟田原地区	小林市大字北西方字猫坂	H20.12.26～H21.3.17	78m ²	溝	なし	県営經營体育成 基盤整備事業
前門塚地区	小林市大字堤字前門塚	H21.2.21	13m ²	なし	なし	市単独農道舗装事 業
鬼塚地区	小林市大字南西方字ヒレ原	H21.3.10	15.4m ²	なし	なし	携帯電話無線 基地局建設

小林市文化財調査報告書第3集
市内遺跡発掘調査報告書

平成21(2009)年3月

編集・発行 宮崎県小林市教育委員会
印 刷 宮崎県小林市大字細野300番地
こぞの印刷

